

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅲ	単位(授業時間/時間数)	1(28/30)
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師名	専任教員	講師所属	福岡水巻看護助産学校		
<p>授業のねらい</p> <p>小児看護学の既習知識を受け、小児期の健康障害がその後の長い人生の QOL に大きく関わるものであることを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。</p> <p>授業目標</p> <p>小児期の健康障害は発達課題をもった子どもの生活に大いに影響することを理解し、子どもが子どもらしく存在できるよう支援することの重要性を学ぶ。そのためには「子どもが成長発達の中で病気かかっている」ことを知り、「病気の中で成長発達を遂げているのではない」ことの違いを確実に理解する。そして、様々な状況にある子どもと家族への関わり手法を学び、子どもが本来もつ「生きる力」が発揮できるよう、保健・医療・福祉・教育の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 2. 小児の状況環境に特徴づけられる看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院中の小児と家族の看護 2) 外来における小児と家族の看護 3) 在宅療養中の小児と家族の看護 4) 災害時の小児と家族の看護 3. 小児における疾病の経過と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性期にある小児と家族の看護 2) 急性期にある小児と家族の看護 3) 周手術期の小児と家族の看護 4) 終末期の小児と家族の看護 4. 障害のある小児と家族の看護 5. 事例展開：気管支喘息の患児の看護過程 					
<p>教員からのメッセージ</p> <p>子どものころに病院を受診した体験などを思い出しながら、病気をもつ子どもと家族への看護について学びを深めていきましょう。授業への参加度も評価します。積極的に参加しましょう。</p>					
<p>授業の進め方： 講義 演習</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院)</p>					
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論(医学書院)</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護(メディカ出版)</p>					
<p>評価方法</p> <p>課題・グループワーク参加度・レポートおよび終講試験(客観時テスト)の総合評価 試験時間は時間数に含む</p>					